

長野県

民俗の会通信

第311号

- フィールドワーク こぼれ話
- 下平 武
- 錦部保福寺町の津嶋神社祭礼
- 卷山 圭一
- 【葉書でつぶやくコーナー】「お婿さま」の風習について
- 平山 直子

フィールドワーク こぼれ話

下平 武

富士見町に移住してもう二十五年を過ぎるのだが、初期の頃に、主に富士見町の石神仏について、町内で八十歳代後半から九十歳代にかけての方々に聞き取り調査を行ってきた。そんな中で、ちょっととした話の糸口から、面白い話題に話が進み、…という経過をたどることが結構あった。そんなこまごましたものをまとめてご披露しようと思ひ筆を執ることにした。「うんうんあるある」と楽しみながら、読んでいただければありがたい限りだ。なお、方言が出ている方はそれなりに文字化している。この辺りの言葉は山浦言葉（山浦というのは茅野市北東部へ原・富士見方面の山付きのこと）と呼ばれるもので、諏訪の平地とは少し違う。

うさぎ

「ウサギをさばくことかい。俺は専門職だもの、冬の副業でやってたさよ。そういうものを扱う商店があつてさ。そこで、ウサギやら鶏やらそういう小動物のさ、肉をここらで

集めてさ、それを売ってたさよ。俺はその番頭がしらす。諏訪の方じゃあんまりやらなんだが、主には高遠の公園あたりに行つて、集めてきたんだがな。俺は、俗に言う小動物取り扱いなんかという鑑札をとつてやってただ。シカとかイノシシなんかは鑑札がまた別だったから、大きいのはやらなんだな。さばくのはウサギが一番多かったが、タヌキやキツネもたまにはあつたぞ。ウサギは、家で飼つてたやつさ。ここらじゃ一軒の家で三匹も四匹も飼つてただ。暮れなんかになれば、日を決めてさ。いくいつかに持つてきてくたさいと触れてあいつてな。そんなときやおめえ、何匹なんて勘定できるもんじゃねえ。何人も来て、みんなでどんどんさばいたちゅうことんだ。」

「そりゃ、当時のここらでは栄養はそういうところからとつたちゅうことんだ。ウサギが唯一の祝日のご馳走だったからな。汁にしたのが多かったかな。ウサギはさっぱりしてて馬肉なんかよりそりゃあうまかつたよ。暮

れには、今じゃあ鮭を買うなり、なんか魚を買つたりするじゃん。その頃は、ウサギがそういうもの代わりだったちゅうことだ。正月によく作つたのは、ウサギの肉と野菜を入れて作つた薄味の煮物みたいなものだ。醤油で味付けしたんだけど、カンラン、今で言うタマナだ、それを入れたやつが一番うまかつたな。カンランがなけりゃネギでもいいがな。」

「鶏もやつたけど、ウサギの方が簡単だったよ。ウサギは肉が柔らかいちゅうか、なんちゅうか。こっちへひっぱりゃこっちへくろし、あっちへひっぱりゃあっちへ行くし、やりやすかつたな。今でもできるかって？もうやめてから何十年もたつて、もうできねえな。こういうことしてると、『大将は生き物の命ばかりとつて』なんて言われるからな。それでいやなつてさ。それからやらなくなつたさ。それでもさ、何だかあつて、牛だったかさばいたこともあつたぞ。なんてつたつてここらじゃ、そういうことできんのは俺しかいねえからな。なんだかんだ言われてもな、自分の生きてく道だつたつてこんさ。」

海苔の仕事

「昔から、ここいらは冬の間は百姓出来ないから。出稼ぎちゅうかそういうことに出か



長野県民俗の会通信三一一号

二〇二六年一月一日

会費年額 五、〇〇〇円

長野県民俗の会

振替 〇〇五二〇一三一―二三六五七

長野県民俗の会

E-mail : info@nagano-minzoku.chu.jp

URL : <http://nagano-minzoku.chu.jp/>

